

1608年、四方を一望できる標高210mのこの場所に岩国城が築かれたのは、軍事的な理由にほかならない。ただし、歴史的な軍事施設も、天下泰平の世にあつては絶好の観光スポットだ。再建された天守閣から見渡す岩国の景色は、まるで自分が天下人になったかのような気分させてくれる。

城山を取り巻くように蛇行して流れる錦川は、右岸にある岩国城と左岸の城下町を隔てる、言わば天然のお堀。そこには、城とまちをつなぐために、水面を飛び跳ねるようにリズミカルなアーチが架かっている。日本三名橋の一つに数えられる木橋「錦帯橋」だ。

錦帯橋が最初に架けられたのは、1673年。支間長が約35mもある連続アーチを架設することで、橋脚を減らし洪水でも流されないようにした。その構造は、中国にあつた橋をヒントにしたと言われている。当時は同様の橋の施工例もなく、土木や建築の最先端技術が結集されたはずだ。

岩国城も錦帯橋もすでに本来の役目は終え、今では市民に親しまれる場となった。そして、その存在意義を評価し、錦帯橋とその周辺の町割を世界遺産に登録しようとする動きもある。

私たちは、これからも新しいものを築いていく。幾十年も幾百年も経ったとき、果たして、どのようなものが残り、どのように今日のエピソードが語り継がれているのだろうか。

おおむら・たくや

1982年生まれ。写真家。大学で土木を専攻。卒業後、写真撮影に針路をとる。大学4年間で苦学して修めた構造力学の知識を生かして、雑誌取材を中心に土木の施工を撮影している。

[撮影地] 山口県岩国市 岩国城復興天守

© OMURA Takuya